

岡山市での肺癌早期発見プロジェクト（尾道方式）の導入提案

2025/10/01

提案内容

肺癌の早期発見・予後改善を目的とした「尾道方式」の岡山市への導入を提案致します。

背景：

肺癌は5年生存率が8.5%と極めて予後が悪く、早期発見が困難な癌です。診断時には既に進行している場合が多く、完治が難しいのが現状であり、岡山市においても肺癌による死亡者は年々、増加傾向にあります。しかし、現在のところは体系的な早期発見方法や有効な検診は確立されていません。

一方、尾道市では2007年から「尾道方式」と呼ばれる早期発見システムを導入し、5年生存率を21.4%まで向上させることに成功しました。この成果は全国的に注目され、全国50以上の自治体で導入が進んでいます。昨年7月にはNHK「きょうの健康」でも大きく取り上げられました。岡山市においても、この実績ある尾道方式を導入することで、肺癌患者の早期発見と予後改善を実現したいと考えています。

尾道方式の概要：

尾道方式は行政、開業医、基幹病院が協働して行う以下の取り組みです。

1. 市民と医療従事者への危険因子の啓発

日本肺臓学会ガイドラインに基づき、医療従事者や市民に危険因子（家族歴、糖尿病、慢性肺炎など）の啓発を行う。

2. 開業医と基幹病院との連携体制の構築

開業医での問診、採血、腹部エコー等で異常が発見された場合、基幹病院での精密検査（CT、MRI、超音波内視鏡など）へ速やかに紹介する体制を整備する。また、開業医への腹部エコーの技術講習も実施する。

3. 肺疾患データベースの構築と分析

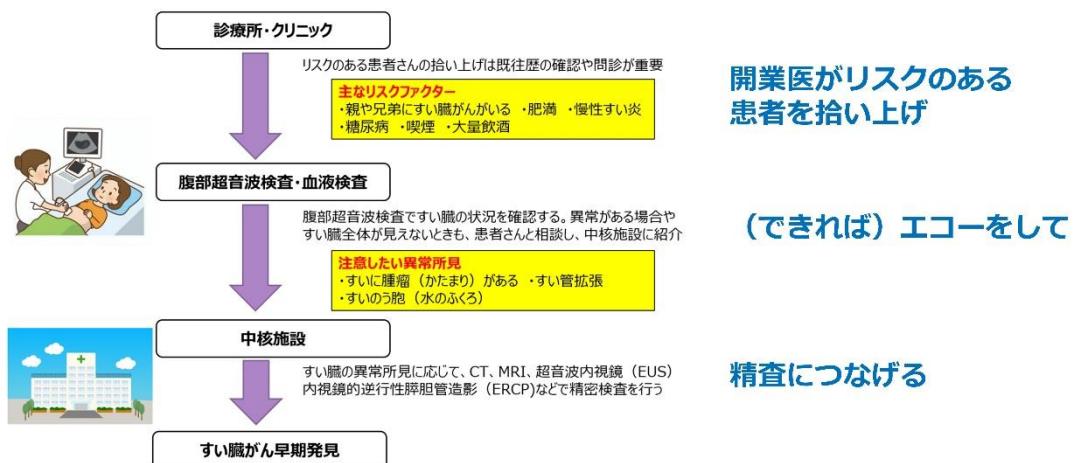
大学病院が中心となり肺疾患データベースを構築し、症例分析結果を学会や論文で発表することで診断精度の向上を目指す。

4. 特定健診・がん検診との連携

尾道市では、特定健診受診者に少額の追加料金（例：75才以上は500円）で腹部エコーを追加できる体制を整備している。

尾道方式の実績を鑑みると、対策型検診としての科学的根拠はまだ十分とは言い難いものの、複数の自治体・地域で注目すべき実績が報告されており、現時点での膵癌早期発見に対する最善のアプローチであると言えます。

尾道方式のコンセプト



Hanada et al. J Gastroenterol 2015

尾道総合病院 膵がんプロジェクト資料 https://onomichi-gh.jp/cancer_med/pancreatic_cancer/

結論：

岡山市においても行政、岡山大学と基幹病院、医師会と開業医らが協働して、尾道方式の実現に向けた体制を構築することを提案します。岡山市民の膵癌の予後を向上させるため、是非とも岡山市のご協力をお願い致します。

岡山市医師会理事

寺田 亮

岡山大学 実践地域内視鏡学講座 教授

河原祥朗

岡山大学 医療開発領域 光学医療診療部 講師 松本和幸

岡山大学 消化器・肝臓内科学 教授

大塚基之